



2023 学びの丘学園

第7号

12月1日発行

おかのうえのぼくら

文責:学びの丘学園コーディネーター 上野陽二

第4回「学びの丘学園運営協議会」より

第4回学園運営協議会では、次の内容の報告や熟議を行いました。

1. 学園関係者評価の中間報告
2. 熟議

- ①イベントのときのみ小学校校区をなくすことについて
- ②学びの丘学園サポーター制度運営のための組織体制づくり【子どもたちの学習を支援するためのゲストティーチャー（GT）や学習活動をサポートするボランティアティーチャー（VT）を確保するための組織づくり】について

【中間報告について】

学習面（学び甲斐）やあいさつ（過ごし甲斐）はおおむね目標を達成していますが、地域貢献（働き甲斐）がもう一歩という結果でした。「過ごし甲斐」に関して委員から『「学校が楽しい。」と言っている子どもが多いことがよいという意見をいただいています。「学び甲斐」においては、現在生活科や総合的な学習の時間において、子どもたちが自ら課題を見つけ、自らの力で課題を解決していく授業実践「ふるさと学習（学園通信第6号参照）」を行っています。写真は、11月11日（土）の子ども大学での発表の一例ですが、地域の方から学んだ「自由ヶ丘文化まつり」について調べたことや学んだことを自分たちの力でまとめ、発表を通して、保護者や地域の方々へ発信しました。皆様には、学校の日などにその様子を見ていただけたらと思います。本年度「働き甲斐」に関しては、「子どもおとな会議」「わんぱく広場」の参加者が増えています。また、まつりを盛り上げようとブース（魚釣りゲーム等）を出店したり、主催者側の手助けになるようにボランティア活動（テーブル拭き、ごみ回収、ジェンダー平等アンケート等）を積極的に行ったりしていました。地域の大人の方に褒められることによって、さらに貢献活動が進むものと思います。

【熟議1 小学校区について】主な意見

- 校区をなくすことには賛成。これから活動が増えることを考えると、イベント（自由ヶ丘文化まつり、寺子屋、わくわく体験活動等）のときだけでなく常に中学校区を「学びの丘学園校区」ということにしたほうが良い。
- ◆ある程度のガイドラインが必要。4年生以上、自転車乗車は可能。基本は、あくまでも子どもの行動については保護者の責任のもとで行うこと。



熟議の様子



「学び甲斐」自由ヶ丘文化まつりの発表



「過ごし甲斐」あいさつ運動



「働き甲斐」ボランティア（ジェンダー平等アンケート）

現在、小学校においては校区制をとっています。それは、子どもの安全確保という意味で、生徒指導上の問題をできるだけ少なくするための措置として取られているものであり、法的な拘束力はありません。また、公道上での自転車乗車の許可が4年生以上となっているのは、「危険予知、危険回避の判断を的確にできるのは、発達段階において4年生以上であること。」という警察からの指導を受けての小学校の「学校のきまり」となっています。

【熟議2 自由ヶ丘学園サポーター制度について】主な意見

○サポーター制度【子どもたちの学習を支援するためのゲストティーチャー（GT）や学習活動をサポートするボランティアティーチャー（VT）を確保するための組織づくり】をつくることは賛成。持続可能な取り組みとするため、手分けして行わなければならない。その時に、誰が管理し、どんなツールを使用するのか議論が必要である。

○現在の地域学校協働活動推進委員の負担が大きい、QRコードやメールによるボランティア登録制を行い進めた方がよい。

◆サポーターコーディネーターについては、定着を図り継続していくためには人材の確保が必要である。（PTA 役員・PTA 役員 OB 等を含め）

【指導助言 福岡教育大学 教授 伊藤 克治 様】

1. 校区をなくすことについて

○「大事な」ということを話し合う会議になっている。（目的が大事）

○校区は、大人の都合で線を引いている。校区をなくすということについては、他者との協働を大事にすることを教えたならば、「みんな学びの丘で一緒」だという意識を持たせればよいのではないか。

2. 組織づくりについて

○持続可能な組織づくりをするためには、カリスマ的な人に頼ってはいない、持続可能なものにはならない。「〇〇さんみたいにはできない。」という前に、この組織でみんな協働してやっているという意識や体制が必要である。

○人・もの・ことが繋がるようになり、教育をよくすると地域が発展していく。地域の方が「自由ヶ丘がどのように発展するか楽しみ。」という発言をされているということが素晴らしい。

○組織体制づくりは、課題が見えてきたので、どんな「人・もの・こと」の活用ができるかを考えていく必要がある。

【指導助言 宗像市教育委員会 指導主事 石川 聡 様】

○学びの丘には、まつりや寺子屋など子どもたちがいきいきと活躍できる場があり、子どもたちが活動的になれるように、仕組みづくりを考えていることが素敵である。

○サポーター制度への課題意識が高く、学校の想いを受けて、地域の方の想い保護者の想いを率直に言い合えるこの場が素敵である。

○サポーター制度は、今日決めてしまう必要はありません。ツールをどうしたらよいのか等、一つ一つ審議していく方がよい。ゲストティーチャー（GT）やボランティアティーチャー（VT）の役割の違いを明らかにして、教育活動を行っていることも素晴らしい。

○コミュニティ・スクールを進める上では、相手意識が大事だと思った。

学びの丘学園「サポーター制度」



学びの丘学園「サポーター制度」(案)

